

2023年度

湘南白百合学園中学校

帰国生入試問題

国語

45分

受験番号		氏名	
------	--	----	--

○受験番号・氏名は解答用紙にも書くこと。

一 次の——線部の漢字は読みをひらがなで、カタカナは漢字で書きなさい。

- ① 縦横無尽むじんに走り回る。 ② 引っ込み思案しあんでおとなしい性格。 ③ あの子のわがままには往生せいじょうする。
- ④ 二枚舌ふたまいしたを使う。 ⑤ 別人べにんのような形相けいさうに変わった。 ⑥ 契約書けいやくしょにシヨメイする。
- ⑦ ツウカイな話を聞く。 ⑧ その考えに対してサンピ両論りょうろんある。 ⑨ 悪事あくじにカタンする。
- ⑩ コイにしたのではない。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ヘレン・ケラーがたたんだナプキンのこと

先日、ひさしぶりでヘレン・ケラーの映画『奇跡の人きせきのひと』を見ました。一九六二年公開の映画ですから、今から五十三年以上前に作られたということになります。見た人もいるかもしれませんが、話には聞いたこともあるかもしれません。この映画の印象的な場面は、なんとと言っても、耳が聞こえず、目も見えず、口もきけないヘレンが、サリバン先生と出会い、最後にもものには名まえがある、ということを理解するところです。ウォーターと言おうとして、ウォ、ウォ、と言い出すところです。そこもほんとうに感動的なのですが、今回、べつのがとても印象に残りました。

サリバンさんと出会う前の彼女は、だれともコミュニケーションがとれない、閉ざされた世界にいたわけですから、まるで動物と同じで、いえ、動物も、群れのなかでマナーのようなものを教わって、そのなかのルールに従って行動するけれども、彼女は、そういう、人と生きる上でのルールのようなものを教わることができなかつた。自分の思うようにならないとかんしゃくを起こして手が付けられなくなるので、みな、彼女を刺激しげきしないように接していた。食事のときに椅子いすに座らないのはもちろん、歩き回って好き勝手にだれかの皿から手づかみで好きなものを取って食べるようなことをしていた。彼女に対する愛情と哀れあわれみと諦めあきらめが、結局彼女をだめにするんだと言って、サリバン女史は、二人きりで食堂しゆくにこもり、何時間もの凄まじい取っ組み合いの末、とうとう彼女に椅子に座ってスプーンを持たせ、ナプキンをたたむことをさせるのに成功した。はらはらしながら外で待っていた母親は、彼女がナプキンをたたんだ、と聞いて、感動のあまり涙なみだぐみます。あの子が、ナプキンを、たたんだ、と、何回か繰り返して口にします。ここもほんとうに感動的でした。母親のそれまでの不安と悲しみまで一度に押し寄せ、ああ、このひとは、たった一人で社会を相手に我が子を守ろうと頑張がんばってきたのだな、とわかるのです。ナプキンをたたむなんて、言ってみれば、どうでもいいようなことです。けれど、今まで獣けものの世界にいた我が子が、ここで、自分たちの群れに帰ってきた、そんな感動が、伝わってくるんですね。群れの一員としてやっていけるかもしれない、という微かな光かすが見えた瞬間しんかんでした。群れに入れない、入れる、それがこんなに絶望と希望を与えるもの

だということ。理屈ではなく、人間の本能のようなところで、それは生死を分けるようなものなのでしょう。個人の主義主張とは関係なく、それは、もう、どうしようもなく。

ですから、みなさんのなかで、一匹狼おおかみでやっていけない自分、仲間に入れてもらおうと卑屈ひくつになる自分、ということに嫌気いやけがさしているひとがいたとしたら、仲間に入れてもらいたいと思う気持ちは、あたりまえのことなのだと伝えたいです。それは、私たちの本能なのだから、と。

問題は、それが自分のほんとうに入りたい「群れ」や仲間でないのに、そういう人間の本能に急せかされて、犬が上位の犬の機嫌きげんをとろうとしてお腹を見せてひっくり返るような行動をとってしまうときの、自己嫌悪けんお感、ですね。

まず言えるのは、生きるってそういう葛藤かっとうの連続ってこと。心から思っている言葉でないこと、相手を褒めるときも、自分がそう思っていたらいいんだけど、思ってもないのに、つい、相手の機嫌をとるようなことを言ってしまったたり、やってしまったときの問題。

そういう自己嫌悪おちいに陥おちいってしまったら、それは若い頃はころありがたいかなことなので、ああ、やっちゃったよー、しようがないなあ、って、心のなかでためいきを吐いていけばいいのです。まあ、しかたがないです。

でも、それはだれにもわからない。それがわかっているのは、あなたしかいません。あなたのみなかで、自分を見ている目がある。いちばん大切にしないといけないのは、そしてある意味で、いちばん見栄を張らないといけないのは、いかっこしないといけないのは、じつは、他人の目ではなく、この、^①自分のなかの目です。

あなたの、ほんとうのリーダー

さて、ここからが大切なことです。

そのとき、ああ、やってしまったよーとか、しようがないなあ、とか、ためいきついているひとはだれ？

だれよりもあなたの事情をよく知っている。両親よりも、友だちよりも、いわんや先生たちよりもあなたのことをすべて知っている。あなたが、そういうことをせざるをえなかった、あなたの人生の歴史についてもだれよりも知っている。しかも、あなたの味方。いつだって、あなたの側に立って考えてくれている。

そう。あなたの、ほんとうのリーダーは、そのひとなんです。

それはさっき私が言った、「自分のなかの目」、でもあります。同じひとです。そのひとにぴったりついていけばいい。

自分のなかの、埋もれているリーダーを掘り起こす、という作業。それは、あなたと、あなた自身のリーダーを一つの群れにしてしまう作業です。チーム・自分。こんな最強の群れはない。これ以上にあなたを安定させるリーダーはいない。これは、個人、ということですよ。

そして、群れというのは本来、そういう個人が一人ひとりの考えで集まってできるものであるべきだと思っています。個人的な群れ、社会的な群れ、様々な群れがありますが、それに所属する前に、個人として存在すること。盲目的に相手に自分を明け渡さず、考えることができる個人。

じゃあ、どうやったたら個人でいつづけられるか。自分のなかに自分のリーダーを掘り起こすって、どうやって？

一つには、自分でも受け入れ難いことをやってしまったとき、ああ、やっちゃったよーとか、自分を客観視する癖をつけることです。② 批判する力をつける。様ざまに批判する力をつけるなかで、自分自身にももちろん、批判する目を向ける。批判って、難癖をつけるとか、文句ばかり言う、ということとは違います。正しい批判精神を失った社会は、暴走していきまます。批判することは、もっとよくなるはずと、理想を持っているからできること。社会を愛する気持ちと反対のものではないのです。客観的な目を持つ。つまり、そういう視点から自分をも見つめる、筋肉のようなものをつける。その目は自分をよく見ているから、自分でできないような無理な要求はしない。ちょっと頑張ったらできるはず、という線が引ける。頻繁にそういうことをしているうちに、それはできます。それを意識するというのがつまり、今言うところの、掘り起こす、という意味。そしてその目が、あなたのリーダー的役割をするものになる。

(梨木香歩『ほんとうのリーダーのみつけかた増補版』)

問一 —— 線① 「自分のなかの目」とありますが、それは何ですか。本文の内容をふまえて五十字以内で説明しなさい。

問二 —— 線② 「批判する力」とありますが、どのような力のことですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他者に対しては客観的な目を持たず、自分自身を客観視することのできる力のこと。
- イ 他者を否定するわけではなく、向上心を持っているからこそできる力のこと。
- ウ 社会が暴走しないために、筋肉をつけるトレーニングをすることでできる力のこと。
- エ 理想を追求しながら、社会を愛する気持ちと対照的な行動を取ることのできる力のこと。

問三 ─────────── 線部「あなたの、ほんとうのリーダー」とありますが、あなたが自分のなかに自分のリーダーを掘り起こす必要があったと感じる経験について、次の(注)に従い、具体的な例をあげて六〇〇〜八〇〇字以内で書きなさい。

(注) ① 解答用紙は縦書きで、一行目から始めること。

② 表記は原稿用紙の用い方にしたがうこと。

③ 文章全体は適切な段落で構成し、分かりやすく書くこと。

④ 「具体的な例」では、自分の体験や経験をまじえること。

2023年度

湘南白百合学園帰国生入試【国語】解答用紙

受験番号A方式 ≪ ≫

受験番号B方式 ≪ ≫

名前「」

一

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

二

問一

問二

--